

都留文科大学

同窓会報

第44号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局

責任者 奥脇美穂

山梨県都留市田原3-8-1

☎0554-43-4341



大学(THMCモニュメント)

同窓會
都留文科大学

新たな歩みを ともに

都留文科大学同窓会会長

渡 邊 正 司



同窓会員の皆様方におかれましては日頃より本会の活動に際しましてご支援をいただき、心より感謝申し上げます。私は、昨年8月第28回定期総会において第19代会長としてご承認をいただきました。伝統ある本学70周年という節目の年に全国4万人の同窓会の会長という重責を担うこととなり、身の引き締まる思いであります。本同窓会の目的である「大学の発展への寄与」と「会員相互の親睦」に向け精一杯務めてまいりたいと思います。今後ともご理解、ご協力をお願い申し上げます。

創立70周年を迎えた昨年は、様々な記念事業が実施されました。2月には記念ロゴ除幕式が行われ、4月のホームカミングデーでは約120人が参加し、かつての授業風景や大学周辺の映像を観たり、現役学生の案内でキャンパス内を散策し、当時を懐かしみました。10月にはたくさんの関係者の参加のもと、記念式典・記念講演が盛大に開催されました。さらにこの記念事業の一環として、4月には大学と地域をつなぐ「つるフィールド・ミュージアム」が完成し、9月には令和10年4月の供用開始を目指し、1号館の大規模改修工事が着工となりました。本学の創立70周年記念事業にあたり、理事会、総会でご承認をいただき、記念事業費への寄付をさせ

ていただきました。記念事業に貢献できたことを同窓会としてとても嬉しく思います。創立70周年の節目を迎えた本学は、ここ数年にわたりこれまでの歴史と伝統を踏まえ、新たな学びを取り入れた教育の質の向上にむけ、創立以来最大規模となる学びの環境整備を進めています。新たなステージを迎えさらなる歩みを進める本学を私たち同窓会も力強く支え、ともに進めていきたいと思っています。

私事です。昨年度末をもって学校現場を離れ、昨年4月より本学のキャリア支援センターにて教員を目指す学生の就職支援に携わる仕事に就いております。子どもたちに寄り添いその成長を担う教師という職業に大きな責任とやりがいを感じ、生涯の職業とすべく努力している本学学生の姿に、創立以来70年の長きにわたり継承されてきた本学での学びに向かう実直な姿勢を感じ、学生との関わりの中で、私自身も充実した毎日を過ごさせていただいております。

本同窓会は、本学創立間もない昭和32年に設立され、多数の先輩の同窓生の皆様のご尽力により、本学の発展を支え、本学とともに長きにわたりその歩みを進めてきました。今を預かる私たちは、これまでの同窓会の歴史と伝統をしっかりと受け止め、さらなる歩みを進めていかなければなりません。今後ともこれまでの歩みを継承しつつ、各支部の皆様のご意見をうかがいながら、会の発展に向けともに取り組んでいきたいと思っています。

結びに、本同窓会が、創立70周年を迎え全国から学生が集い学ぶ魅力ある選ばれる大学として、未来に向けさらなる発展を続けていく本学を支え、会員の皆様の親睦と交流、心の寄す処となり、皆様のご自愛され、ご家族とともに平穏な日々を過ごされることを願い挨拶いたします。

都留文科大学同窓会役員

役 職 名	氏 名	卒 科	役 職 名	氏 名	卒 科	役 職 名	氏 名	卒 科	役 職 名	氏 名	卒 科
名誉会長	加藤敦子	学 長	栃木県支部長	平野見一	S54英	鳥取県支部長	西田智貴	S60初	理事	諏訪桂一	S57国
会 長	渡邊正司	S63初	群馬県支部長	齋木雄造	S52国	島根県支部長	大島英明	S58初		千野文雄	S48英
副 会 長	桐井幸雄	S32初	千葉県支部長	川名和則	S51英	岡山県支部長	関野茂夫	S58初		中山栄二	S55初
	杉中康平	S59初	東京都支部長	松本多加志	S44初	広島県支部長	白石 隆	S41初		石井正己	S51初
	小山田拓也	H06初	神奈川県支部長	大村和明	S49英	徳島県支部長	小倉健司	S53英	顧 問	後藤 敬	S33商
	奥脇美穂	H01初	富山県支部長	杉高 浩	S63初	愛媛県支部長	谷川忠孝	S42初		佐藤英雄	S38国
庶務会計	小口尚良	S60初	石川県支部長	中川 岳	S54初	高知県支部長	前田志郎	S48初		奥石 東	S32初
	原田裕太	H07初	福井県支部長	山本貞郎	H02初	長崎県支部長	太田尾透一郎	S48国		山縣永良	S39国
事務局長	鈴木いづみ	大学総務課長補佐	山梨県支部長	篠原利明	S63初	熊本県支部長	杉水 修	S61初		勝俣武男	S41初
	梶原裕一郎	H12初	長野県支部長	市村一彦	S63初	宮崎県支部長	取附義弘	S51初		永田清一	S46国
事務局次長	浜欠亮吉	S39国	岐阜県支部長	香田静夫	S60初	鹿児島県支部長	本田武久	S43国		千野文雄	S48英
	外川正純	S46英	静岡県支部長	臼井 泰	S46国	沖縄県支部長	比嘉正夫	S53英		亀田孝夫	S51英
監 事	北川圭吾	H12初	愛知県支部長	加藤俊行	S63初	北海道	加藤佳栄	S55英		原 喜雄	S53初
	淡野香百合	S39初	三重県支部長	田畑繁行	S53初	東北7県等	坂本忠厚	S58初		加藤一雄	S53初
理事(支部長)	相川洋子	S52英	滋賀県支部長	松嶋孝雄	S46初	兵庫県	赤穂榮一	S40英		柏木精一	S57初
	北海道支部長	照山秀一	京都府支部長	栢谷雄三	S44初		中村 勝	S59英		河端雄一	S63初
	青森県支部長	遠藤ゆみ子	大阪府支部長	藤田明彦	S57初		小沢慎太郎	H06初		笹本忠彦	S62英
	岩手県支部長	千葉新也	兵庫県支部長	後藤純二	S48英		山田茂之	H02初			
	宮城県支部長	片岡有吾	奈良県支部長	辻 明彦	S59英		藤波 貴	H03初			
	山形県支部長	渡邊 隆	和歌山県支部長	谷口博保	S51初		中込直樹	H01初			

70周年を越えて、 次のミライへ

都留文科大学学長

加藤 敦子



本学は、2025年度に創立70周年という大きな節目を迎えました。この記念すべき年を無事に迎え、次の一步を踏み出すことができましたのは、同窓生の皆様、地域の方々、関係各位の温かいご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。また、70周年を記念して同窓会や多くの皆様から多大なるご寄付を賜りました。厳しい社会情勢の中、母校の発展と後輩たちのために寄せられた皆様の真心に、厚く御礼申し上げます。

この一年、「色とりどりのミライへ。」というコンセプトのもと、同窓生の皆様、地域の方々、学生・教職員が一体となり、その言葉を具現化するような時間を共有することができました。

10月の70周年記念式典、また1号館（講義棟）改修に先立ち4月に開催したホームカミングデイには、全国から多くの皆様にご参加いただきました。その他の折にも、同期生、部活の仲間などで誘い合って大学を訪問して下さる方々もいらっしゃいました。皆様が抱き続ける「都留への想い」の強さに、改めて身の引き締まる思いです。私自身も、三重、愛知、岩手、石川、長野、神奈川、宮城、和歌山の各支部総会にお招きいただき、多くの皆様と直接対話する機会を得ました。残念ながらお伺いできな

かった支部についても、改めて機会があればと願っております。

70周年事業としては、4月に「つるフィールド・ミュージアム」が開館し、地域と大学を結ぶ活動をさらに積極的に展開しています。思い出の詰まった1号館（講義棟）の大規模改修工事も順調に進んでおり、次世代の学びの場へと生まれ変わろうとしています。

本学には今も全国47都道府県からの学生が集っていますが、近年の新入生の志望動機は大半が「教育内容・カリキュラム」であり、教員志望者は入学者全体の約半分となっています。こうした現状をふまえ、教員養成の伝統を堅守する一方で、ANA 総合研究所との連携によるPBL 講座や、ファナックの講師を招いた講義など、学生のキャリアの選択肢を広げるプログラムをスタートさせるなど、新入生の志望動機の変化や社会の要請に対応した教育プログラムの拡充を進めています。

18歳人口の激減をはじめ、大学を取り巻く厳しい状況は続きますが、都留の地で学び、日本各地や世界へと羽ばたく学生たちの志は、70年間変わることのない本学の誇りです。学訓「菁莪育才」のもと、全国から集まり、都留で切磋琢磨して成長した学生を世に送り出すという本学の理念の重要性はむしろ増しています。

これからも、歴史と伝統を礎に教育の質を不断に問い直し、「選ばれる大学」であり続ける努力を重ねてまいります。70周年を越えたいま、同窓生の皆様とのつながりをさらに深め、次なる10年、そして100周年に向けて共に歩みを進めていきたいと考えております。今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和7年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	県 名	会員数	No	県 名	会員数	No	県 名	会員数	No	県 名	会員数
1	北海道	648	13	東京都	1,404	25	滋賀県	109	37	香川県	163
2	青森県	285	14	神奈川県	1,269	26	京都府	264	38	愛媛県	388
3	岩手県	739	15	新潟県	685	27	大阪府	461	39	高知県	88
4	宮城県	633	16	富山県	757	28	兵庫県	841	40	福岡県	219
5	秋田県	294	17	石川県	652	29	奈良県	91	41	佐賀県	80
6	山形県	418	18	福井県	577	30	和歌山県	212	42	長崎県	241
7	福島県	775	19	山梨県	4,197	31	鳥取県	156	43	熊本県	185
8	茨城県	567	20	長野県	1,423	32	島根県	223	44	大分県	113
9	栃木県	560	21	岐阜県	627	33	岡山県	434	45	宮崎県	159
10	群馬県	459	22	静岡県	1,841	34	広島県	492	46	鹿児島県	352
11	埼玉県	567	23	愛知県	1,223	35	山口県	156	47	沖縄県	266
12	千葉県	624	24	三重県	433	36	徳島県	477	48	外国・不明等	12,730
										合 計	40,557

県支部設立済都道府県

令和8年2月1日現在

同窓会の大切さ： 文大卒業生とは どこかで繋がっています

都留文科大学退官教授
英文学科

儀部 直樹



同窓生の皆様、いつも母校愛で大学を支えてくださり、誠にありがとうございます。私は1992年に縁あって英文学科の専任講師として着任し、みなさんと繋がりを持つことになりました。文大卒業生は様々な分野で活躍しています。輝いています。私はそのことを見聞きする度に嬉しくなり誇りを感じます。誰かに自慢したくなります。私たちはどこかで繋がっています。例えば以前私が教育実習の派遣指導に行きましたら、そこの学校の教頭先生から「大学時代に儀部先生の授業を受けたことがあります」と、言われたことがあります。どきっとしました。それから私の娘が中学生の時、カウンセラーの先生が初等教育学科の卒業生であった、ということを知りました。その先生が娘に「私は免許科目で儀部先生の授業を受けました」と教えてくれたそうです。確か1994年と95年の2年間、英語副免クラスの「英作文法」を担当した

ことがありました。その中にその人がいらしたのですね。当時私はまだ子どもがいませんでした。まさか将来自分の子がお世話になる先生がそのどちらかのクラスにいるとは考えもしませんでした。その話を聞いて私は「誰が見ているかわからないし、将来何かでお世話になるかもしれないから、授業時の言動には気をつけよう」と肝に銘じました。私は1999年の9月の始め頃に沖縄の同窓会の講演会に呼ばれました。私が沖縄出身であるというのが理由でした。その際に司会をされた方は発声や言葉の選び方からして、素人ではありませんでした。挨拶の時に頂戴した名刺を見て「フリーアナウンサー・・・」とありました。名前を知って、またびっくりです。金城宏安さんです。地元の或るラジオ局のアナウンサーをされた方で、退職後はフリーでもご活躍されているとのことでした。金城さんは、本学の一期生（短大）でして「将来は小学校教師」というお志で入学されたそうです。しかし本学を卒業後、東京の大学に編入学をされて、卒業後はアナウンサーになられたそうです。私は、なんと、1970年代つまり十代の頃、金城さんがパーソナリティーを担当していたラジオ番組を聞いていました。まさかそのラジオの人が、将来自分が就職する大学の一期生とは・・・。

同窓生の皆様のますますのご健康とご活躍を心より祈念いたします。

新学科設立への思い

都留文科大学退官教授
国際教育学科

茂木 秀昭



都留文科大学には2015年に着任して11年間お世話になりました。

最初の2年間で新学科を作るということで、当時は新学科準備室の所属でした。当初、3人の専任を雇うということでしたが、蓋を開けると、結局私1人だけの採用となってしまいました。手伝ってくれる方々はいましたが、果たして国際教育学科ができるのか、私以上に他の方のほうが不安だったかもしれません。

「国際～」と称する他大学の学科、学部との差別化のためにいくつかの柱を立てることになりました。1つ目は国際バカロレア（IB）教育ができる教員養成プログラムの認証取得と開設、2つ目は全員対象の交換留学の実現、3つ目は英語

教育の充実、4つ目はクリティカル・シンキング能力の養成でした。

まずカリキュラム開発と人事採用を進め1年後に文科省に新学科申請、1年半後にIB機構への書類申請と認証のため海外から3人の審査員が訪問し2日間に渡るプレゼン及び質疑応答があり、「無条件での認可」という高評価を得て、世界でも30大学ほどだったPYP（小学校）、MYP（中学校）、DP（高校）全ての教員養成プログラムの開設が決まりました。

また、海外の提携校探しをおこない、新学科スタートの2ヶ月程前に、デンマークなど北欧の大学と、授業料の相互免除という条件で交換留学にもなんとか目途がつけました。1期生53名は、2年生の後期に全員の留学が実現しました。フィンランド、スウェーデンなどからも合わせて30名ほどが来日し、「異文化コミュニケーション」で27名ほど、「ディベート」の授業で10名の北欧生だけの授業をおこなったのも良い思い出です。

多くの方々の協力の下、新学科がスタートし、来年度は10周年を迎える今日まで、命脈を保って来られたことに感謝です。

進取の気性と併せて、古き良き伝統が残る都留文の気風をこれからも大事にしていきたいと願っております。



活躍する同窓生

誰とも語り合える
大学 その強みは
唯一無二

池田 拓哉

(平成9年度 社会学科卒業)



米倉涼子さん主演のテレビドラマ「ドクター X」シリーズが好きでした。劇中で流れた東帝医大（東帝大？）の応援歌「唯一無二」はナンバーワンを勝ち誇る歌詞でしたが、都留文科大はオンリーワンの存在感を誇れるユニークな大学です。

私の出身は熊本県天草市です。熊本市内までバスで2時間余り。大学に通うには、親元から離れねばなりませんでした。

「いっそのこと、東京に近い大学に行こう」。インターネットが普及していない1990年代前半、高校3年の秋でした。地図帳で関東地方を眺め、大学一覧に掲載されている所在地と突き合わせました。ありました！ 西の端っこに都留市が。

大学に電話をかけ、新宿までの電車の所要時間を聞きました。特急なしで約2時間と聞き、「近い！」と思いました。学生が全国から集まるという面白さも感じ、私は都留文科大を目指したのでした。

あれから30年がたち、私は朝日新聞甲府総局の記者として山梨に「里帰り」しました。ご縁あって、地域社会学科の佐脇英志教授が担当されたキャリア教育の一環の授業で、教壇に立つ機会を得ました。その場で、私がこの大学を目指した理由を話すと、学生は目を丸くしていました。私の時間と距離に対する感覚がユニークに感じられたようです。

私がこの大学で学んだのは、自らがユニークな存在になること。そして、ユニークな発想を大切に、それを面白がる心でした。そうした感覚は、8割以上の学生が大学周辺に住むという環境と、小規模大学ならではの教員との近さ、そして地域住民の皆さんの学生への温かさに育まれたと思います。

友人や先輩たちと、出身のお国なまりを交えながら、大学の内外でよく語りました。日々のおしゃべりが自らの個性を意識させてくれました。欠点もそれなりに自覚したのですが（笑）

多くの先生や大学職員の皆さんと、大いに話す機会も得ました。話しぶりや、身ぶり手ぶりから、個性的な人柄が伝わりました。その結果、先生方のも

のまねが上手になりました（笑）

バイト先や飲食店で世間話も楽しみでした。あるラーメン居酒屋で顔なじみになると、ママさんが「水だよ」と言いながら日本酒を出し、「うまいら？」とにやり。感動とは、想像を超えた先にあることを教えてくれました（笑）

日々の語り合いの中で、私は個性あふれる都留という街が好きになりました。友人たちから故郷の思い出話を聞くのも楽しかったです。「見知らぬ街の個性に接したい」という好奇心は、故郷のバス会社や学習塾での勤務を経て、地方を転々とする新聞記者になる大きな動機となったのでした。

山梨県内を取材する甲府総局は、私にとって10カ所目の任地でした。希望がかなう形で2022年4月から昨年8月までの約3年半、勤めました。大学にまつわる心に残った取材はいくつもあります。

内戦中のシリアで取材中に銃撃され、命を落とした都留文科大出身のジャーナリスト・山本美香さん（享年45）の没後10年となった22年、私は4回の連載記事を執筆しました。世代を超えて継がれている山本さんの志を伝えました。

朝日新聞記者の先輩でもある山本さんの父・孝治さんにも都留市内のご自宅で取材しました。「誰にでもあるささやかな喜びを守るため、美香は危険を承知で戦地で取材を続けたんだ」。昨年末に逝去された孝治さんのご冥福をお祈りします。

全国の大学でトップレベルにある都留文科大合唱団も取材しました。互いに声を確かめ合う合唱団にとって、学生どうしがすぐに会える環境が強みであるというエピソードに納得しました。

学生時代によく通った「ブックスカトー都留店」が23年夏、30年の歴史に幕を下ろして閉店したという取材も感慨深かったです。

2025年は都留文科大にとって創立70年の節目でした。同年4月の「ホームカミングデー」も取材しました。約120人の卒業生が参加し、学内のあちこちで思い出話に花が咲きました。

都留短期大を1958年に卒業された桐井幸雄さん（取材当時89）は「昔はみんな、自分専用の裸電球を持っていた。夜、ピアノがある教室で練習するためにね」と懐かしそうに、楽しく話されていました。

70年前に都留に灯った小さな光は、だんだんと大きくなり、全国さらには海外に放たれ、各地で輝きを増していると私は確信します。これはホームカミングデーで卒業生の方々を取材しての感想です。

誰とでも語り合える大学、都留文科大。その強みは唯一無二。都留で学んだ誇りを胸に、現在の任地・埼玉県熊谷市でも地域の個性を楽しみながら、深く掘り下げた記事を書き続けます。

活躍する同窓生

かけがえのない 大切な命を 自分で守る

リズムオブラブ主宰 やまなし大使

渡辺 光美

(昭和63年度 初等教育学科卒業)



【きょういく(教育⇒郷育⇒響育)】の無創道

新しく生まれ変わる年(還暦)に、執筆のチャンスを受け感謝します。

【教育】

情熱のある素敵な先生に出会えたことで、子どもの頃から憧れていた小学校教諭。その夢を叶えるために、実家のある西桂町の隣街にあった都留文科大学を目指した。中学校時代から一生懸命勉強し吉田高校に入学、念願が叶い本学へ。

幼少期から体を動かすことが大好き。殆どのスポーツは網羅していたが、表現運動だけは未経験だった。小学校教諭を志望するなら「リズムダンス」は不可欠だと思い、あえて『モダンダンス部』の扉を叩く。この扉を開いたことが今の活動に繋がるとは知る術もなかった。

当時は倍率の高かった山梨県教員採用試験に3年掛けてやっと合格し、夢見てきた小学校教諭としての「熱中時代」を過ごす。「熱血教師」の渦中、2001年に大阪教育大学付属池田小学校で、8人もの命が犠牲になった児童殺傷事件が起きた。社会を震撼させ学校の安全神話が崩れたこの事件を契機に、これまでの安全教育では目の前にいる子どもの命は守れないと痛感した。

そこで、今の活動の源となる「健康安全教育プログラム～かけがえのない大切な命を自分で守る心と体づくり～」を学校現場で考案した。授業で取り組んでいたプログラムが評判になり、地域の公民館・体育館・交流センター等に招かれ披露するようになった。次第に「社会教育・生涯学習」として県内に普及、使命感も高まり周囲の大反対もあったが20年を節目に教職を辞した。

【郷育】

2009年3月、甲府市で市民団体『リズムオブラブ』を設立。『リズムオブラブ』の「リズム」は胎内で命が授かって初めて聞く母親の心臓の鼓動を、「ラブ」は郷土愛・人間愛を意味する。一人ひとりが生かされた奇跡の存在であり、まずその有り難さ・尊さ・繋がりに気づくことが「見守り&身守り」の根底であることを伝えてきた。

稀有な確率で授かった命が不慮の事件や一瞬の事

故、災害に巻き込まれて奪われることのない様に「山梨発信! 健康安全郷育プログラム～防犯・防災・交通安全～」を通して、行政・企業・市民と協働し「元気で明るく安全なふるさと山梨創り」を目指してきた。

乳幼児から高齢者まで、1ヶ月に体験する人は約1000人、年間1万人以上と交流してきた。体感型講座・研修・教室・イベント・サークル等で、生涯にわたり継続できる様、大切なことを解りやすく「リズム体操・リズム運動・リズム遊び」を通して楽しく届けてきた。

いつの時代もその時々社会状況ならではの危険が潜んでいる。未来を担う子どもの命をどうすれば守れるのか、その問いの答えを模索しながら『無創道』を歩み続けている。

犯罪から身を守る用語『いか・の・お・す・し』(ついて行かない! 車に乗らない! 大声を出す! すぐ逃げる! 知らせる!)。有り難いことに県内の多くの小学生に周知され、山梨県警察と協創した『いかのおすし体操』も人気だ。しかし、様々な犯罪の入り口は、今やネットやスマホになり「誘いに乗らない!」が喫緊の課題となっている。子どもにとっても便利で楽しいツール。でも、使い方を一歩間違えると、悪口・仲間外れ・誹謗中傷・デマ・炎上・SNSによる誘い出し・自撮り性被害・ゲームやネット依存・オンラインゲーム上でのいじめや課金・闇バイト等のトラブルに一瞬で繋がってしまう。凶器に変貌し命を落とす事案も発生している。被害者だけでなく、加害者も傍観者も生まない社会を目指したい。

【響育】

同窓の皆様は、都留市が2021年8月に山梨県初、全国で17番目の世界認証『セーフコミュニティ』を取得したことをご存じだろうか? WHOが推奨し「国際セーフコミュニティ認証センター」が認証する世界的な取り組みで、「事故やけがは、偶然の結果ではなく原因を分析することで予防できる」という理念の下、地域全体で住民らが連携して安全安心の向上に取り組んでいるコミュニティ(地域)・自治体の名称だ。

有り難いことに構築の段階から都留市と協働している。6つの対策委員会(交通安全・高齢者の安全・防災減災・防犯・心の健康・親と子の安全)があり、特に防犯対策委員会に関わっている。これまで『リズムオブラブ』が積み上げて来た活動や方向性は、間違いではなかったと自信と確信をもらった。

お陰様で2025年9月、これまでの健康安全郷育活動が文部科学大臣に認められ、教育功労賞を受賞した。いよいよ全国へ山梨発祥のプログラムを響かせる時期が来たと実感した。そこで、全国で活躍し世界に繋がる心意気ある同窓の皆様、どうか響育の『無創道』へのお力添えを頂きたいと切に願う。

『リズムオブラブ』HPの問い合わせページから連絡を頂けると幸いです。お待ちしております。

<https://heartandbody.net>

夏の北海道の神社にて

北海道支部長 照山 秀一

R7年7月北海道支部総会、加藤佳栄さん(S55卒)お勤めの、札幌の新川皇大神社で行いました。参加者全員が正式参拝、茅の輪をくぐり、穢を祓い、昇殿、玉串奉奠拝。宮司さんのお話や、静かな境内に響く祝詞に耳を傾けながら、改めて「健やかに暮らす」ことの大切さを実感したところです。会には、同窓会本部から桐井副会長(S33卒)、支部設立者の日下功さん(S33卒)、函館から長坂隼さん(S37卒)をはじめ、全道各地から出席がありました。

懇親会のひととき、話題は改築となる講義棟や都留の町並みの写真、都留や吉田の町が舞台となったテレビドラマ「ホットスポット」などの話題で、あの頃の記憶や空気が静かに甦りました。「私たちの心は、やっぱり都留にあるんですね」との一言が、時を超えて心を結び、言葉を超えた思いが深い余韻を残していました。

○令和8年度支部役員(卒業年)

顧問 日下 功(S33初) 横山 勲(S41国)
本部理事 加藤 佳栄(S56英) 照山 秀一(H2初)

支部長	照山 秀一(H2初)	
副支部長	山本 洋嗣(S56国)	河原 範毅(S57英)
	新川 和範(H3初)	
事務局長	北田 則章(S57英)	
事務局次長	佐藤香代子(H5初)	桜田 琢(H9社)
事務局員	深田 尚志(H13英)	尾原悠紀子(H14初)
	赤間 圭城(H26国)	吉田 俊介(H26英)
	國井 紗希(H26英)	今井 郁也(H28比)
会計	神野 昌代(H5国)	
理事	石狩 佐藤香代子(H6初)	小林 睦(H9社)
	檜山 柧木 直子(H7初)	
	後志 中岡 真樹(H10初)	
	上川 藤原 聡(H2初)	田中 淳也(H9初)
留萌・宗谷	明石 貴宣(H8国)	
オホーツク	風間 直樹(H5初)	
釧路	大南 優(H6初)	
十勝	新川 和範(H3初)	池田 圭子(H5初)
根室	飯田 雄士(S62初)	高野 智晴(H5初)
札幌	赤間 圭城(H26国)	吉田 俊介(H26英)
高校	青木 広明(H3英)	森田 一生(H15英)
会計監査	中村厚喜夫(S53初)	江川 順一(S60国)

青森県支部活動報告 ～成果と今後の課題～

青森県支部長 遠藤 ゆみ子

令和7年8月23日(土)、八戸パークホテルにおいて、第8回青森県支部総会並びに懇親会を開催いたしました。近年は参加者が10名前後でしたが、今年度は新たな参加者を迎え、計15名の出席となりました。総会では支部活動の報告や今後の方針について意見交換が行われ、懇親会では和やかな雰囲気の中、旧交を温めるとともに新しい仲間との交流を深めることができました。また、今年度は大学創立70周年の節目にあたり、会員のお一人が大学を訪ねた様子をスライドショーで紹介しました。キャンパスの近況が映し出されると、参加者からは懐かしさと喜びの声が上がり、大いに盛り上がりました。さらに、支部総会の開催日を毎年8月第4土曜日に固定したことが、参加者増加につながった点も大きな成果でした。日程が定着したことで予定を立てやすくなり、継続的な参加意欲につながっているのではないかと信じています。今年は参加者がやや増加しましたが、依然として会員募集や参加者のさらなる増加が課題です。今後も母校の節目を契機に、より多くの同窓生に支部活動へ関心を持っていただけるよう、積極的な広報と交流の機会を工夫していきたいと考えています。

次回は、令和8年8月22日(土)、八戸パークホテルにて第9回青森県支部総会・懇親会を開催予定です。

青森県在住の同窓生の皆様、ぜひ支部活動にご参加ください。旧友との再会、新しい仲間との交流を通じて、母校との絆を深める場となります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

《令和7年度役員》

顧問	笹垣 昇	鈴木 俊雄
支部長	遠藤ゆみ子	
副支部長	中村 正寿	畠山 直栄
監事	梅村千鶴子	田茂 博之
事務局長	川村久美子	
地区幹事	三八 泉山 睦典	
	上北 鈴木 昭子	
	東青 高木 圭一	安田 健治



都留大を通じて繋がれ、広がれ、深まれ絆！

前岩手県支部長 高橋 節夫

(S57 英文 空手 黒部荘)

新型コロナ禍の影響もあり、当初は任期2年の予定で引き受けた支部会長職も結局7年間務めさせて頂きました。最後の3年間は、岩手県出身現役学生との懇話会にも参加させて頂いて、こちらがとてつもない勉強をさせて頂きましたし、3年連続で都留に行けたこと見れたことが純粋に嬉しかったです。

R7年には、前回に引き続き加藤学長様にお越し頂いて岩手支部の同窓会総会・懇親会を花巻で11月に開催できましたし、更には下宿(黒部荘)の同期生も8月に花巻に集まって楽しくやれたので、私にとっては正に嬉しい「都留 year」となりました。

今後、岩手支部は千葉新会長さんのもと新体制で動き出します。絆を深め、宜しくお願い致します。

最後に、全国各支部の皆さんにひとつ提案があります。支部の総会・懇親会を開催する際に、できれば何か一つ研修会も組み込めれば楽しくなるというか、より充実すると思います。岩手では前回、釜石出身で都留大OGの語り部による「震災津波体験談」、今回は「KOH見学会」を行い参加者から好評でした！

【都留大同窓会岩手支部役員】R7～9年度

(※役員任期は原則3年、支部総会も今後は3年ごとの開催となります)

会長 千葉新也 S56初

副会長 小山田厚 S55国、高橋節夫 S57英、伊藤昌俊 H1国

- ・事務局長：滝澤真貴子 H6初
- ・事務局員：相墨純 H3初、小田美香子 H5初
- ・理事：盛岡：山名花苗 H28社、中部：門屋なつみ H1国
県南：加藤絹代 S55英、沿岸：山名秀樹 S55国
県北：滝澤真貴子 H6初、高校：安藤裕之 S63国
- ・監事：小山奈美子 H5初、丹 百合 H5初
- ・顧問：司東節子、高橋一臣、堀籠智志、小山田厚、高橋節夫

「KOH」
菊池雄星選手が私財を投じ花巻東高の隣に建てた、野球関連の最新鋭トレーニング施設のこと

岩手支部研修会(KOH)
撮影場所：花巻東高球場

R7.11月1日

King of the Hill
とは、マウンドの王(優れた人物)

R7.11.1 岩手支部「研修会」

宮城県支部活動報告

宮城県支部長 片岡 有吾

支部長5年目となりました。令和7年2月1日(土)、宮城支部総会・懇親会を開催しました。加藤敦子学長、田中正樹事務局長、山形支部より渡邊隆支部長、佐藤敏幸副支部長、岩手支部より高橋節夫支部長、千葉新也副支部長をお迎えし、40名の参加で再会の喜びを分かち合いました。近況報告では一人一人の個性豊かなスピーチに全員が聴き入り、最後まで楽しく和やかな会となりました。

また、残念ながら教員採用試験対策学習会は実施できませんでしたが、昨年度に引き続き、若手の同窓生主体の懇親会を開催しました。今後も宮城支部の活動を更に充実させていきたいと考えております。

【宮城支部教員採用試験研修会・支部についてのお問合せ】
(メール) yugo5042@gmail.com 片岡までお知らせください。



<令和7年度役員>

顧問	鎌田光彦	鎌田 清	小野俊次	千葉龍正
参与	菅野俊雄	菅原義之		
大学同窓会理事	伊藤常治	坂本忠厚		
支部長	坂本忠厚	片岡有吾		
副支部長	一條良介	斎藤竜一	市岡良庸	小野寺直美
	伊藤ひろみ			
事務局	<事務長>	菅野俊雄	<事務局次長>	高橋克己
総会・懇親会担当	高橋克己	斎藤竜一	小野寺直美	高野 剛
	伊藤ひろみ	浅井理香	熊谷拓郎	大庄司華菜
	横山英実	及川恵子	杉浦瑞穂	大庄司華菜
会計	横山英実		広瀬清文	蓮沼秀行
地区役員	仙台市	○菅原 崇		
		高野 剛		
	仙 南	○伊藤久美子	佐藤幸光	馬場純子
	仙 台	○高橋克己	吉田準子	齋藤竜一
	大 崎	○清水 進	伊藤 稔	市川人士
	登 米	○佐藤 純	及川恵子	
	栗 原	○岩渕和男	千葉睦子	後藤咲織
	石 巻	○高清水美枝	片岡明恵	
	気仙沼	○小野寺直美	千葉慎一郎	菅原佳江
研修部	<部 長>	一條良介	<副部長>	斎藤竜一
監 事	横山貞夫	佐藤幸光	相澤光信	

べにばな会は次のステージへ

山形県支部長 渡邊 隆

山形県支部の活動についてご報告します。今年は、大学創立70周年を迎え、本県同窓会から1号館改修への寄付を行うことができました。また、2年に一度の総会の年度にもあっており、新たに事務局組織を立ち上げ、若手会員の協力のもと、20名にのぼる参加者を集め、盛大に総会及び懇親会を開催することができました。これまで事情により参加できなかった会員の方含め、20代の会員の方の参加もあり、山形県支部べにばな会の活動も新たな段階へとなってきたと感じております。さて、これまで宮城県支部との交流を図り、今年度も片岡支部長の参加もいただきましたが、宮城県支部総会には、本県支部の立ち上げに尽力された武田顧問、及び第2代会長でもある神尾理事に参加いただくことにしております。会長職等が繰り返し顔を出すのではなく、宮城県支部の諸先輩方との交流も深めていただくため、今回新たに取り組みを行っているところです。各支部との交流をはじめ、山形県支部の飛躍のため、これから尽力していきたいと思っています。

【令和8・9年度 べにばな会役員】

顧問	武田茂行	会 長	渡邊 隆
副 会 長	佐藤敏幸	会計幹事	原田清一
村山地区理事	小川秀人	鈴木雄二	白林和夫
最上地区理事	武田茂行		
置賜地区理事	神尾正俊	佐藤秀樹	中條秀基
庄内地区理事	若月 力	野口利明	
事務局	布川信二	小泉智巳	水原 豊 石川創太



「ばけばけ」の都留、行こう。

栃木県支部長 平野 見一

栃木県、そして全国の同窓生のみなさん、こんにちは。本支部は令和元年8月31日に全国41番目の支部として設立され令和7年に6周年を迎えることができました。今後も支部会員をはじめとした全国の同窓生の皆様のお力添えをお願いいたします。

大学は創立70周年を迎えて「ばけばけ」しています。支部活動も少しずつ「ばけばけ」しなければと思っています。さあ、「ばけばけ」の都留、行こう。

※「ばけばけ」…「変わる」の意

令和7年度の主な事業は次のとおりです。

その1 年度2回の役員会の開催

役員会を2回(6月、3月)開催しました。第1回役員会は規約に基づき支部総会を代替しました。

なお、新年度は支部会員に御参集いただいての支部総会を開催予定です。御参加をお待ちしています。

その2 支部だより第3号の発行

支部だより「つる とうち LINE」を発行(年度1回)しました。支部及び同窓会本部の活動を紹介しています。

最後になりましたが、都留文科大学と都留文科大学同窓会

のますますの御発展と全国の同窓生の更なる御活躍をお祈りいたします。

◆役員◆ ※理事は省略させていただきました。

支部長	平野 見一
副支部長	柿沼 裕子
監 事	菱沼 孝 磯 佳子
事務局長	赤羽 喜代美 齋藤 初代

★栃木県支部に新たに加入したい方、興味・関心がある方は、平野まで御連絡ください。

平野 見一 【携 帯】090-4662-1944

【メール】hira3ken3@hb.tp1.jp



●第1回役員会 令和7年6月28日(土) 開催●

三度訪れた都留に寄せて

群馬県支部長 齋木 雄造

本年は、三度、都留を訪れる機会に恵まれました。

一度目は、4月19日(土)の理事会・在学生との懇話会です。この会は、同窓会群馬県支部が8月に開催している教員採用試験模擬面接学習会について説明し、在学生と群馬県支部がつながる貴重な機会となっています。しかし、本年は懇話会への参加者がなく、在学生とのつながりの在り方について改めて検討する必要性を痛感しつつ帰路に就きました。

二度目は、8月2日(土)の同窓会定期総会です。当日は、オープンキャンパスも開催され、大勢の高校生や保護者の方々、サークル活動を紹介する在学生などで大学は活気に満ちていました。1号館の405講義室では、保護者向けの説明会が行われていましたので、総会の開始時間までお話を聞かせていただくことにしました。実に47年ぶりの405講義室です。席に着いて周囲を見回したとき、不意に懐かしさが込み上げ、当時の映像が甦ってきました。確かここで行われた卒業式後のレセプションの終了間際、講義室の少し離れたところから口形でメッセージを伝えてくれた友達の姿が目につきました。

三度目は、10月11日(土)の大学創立70周年記念式典です。徒歩で大学構内を抜け、式典会場の「都の杜うぐいすホール」に辿り着くまでの長い上り坂には体力の面から年齢の積み重ねを実感させられました。記念式典は、次の創立80周年に向かう新たな第一歩であると感じました。この先も「色とりどりのミライへ」向かって飛躍する都留文科大学であってほしいと心から願いたい気持ちになりました。

さて、令和8年は、群馬県支部総会・懇親会を開催します。
◇日時：令和8年8月8日(土) 午後5時半から。
◇会場：ホテルメトロポリタン高崎。

予定に入れていただき、ぜひ、ご出席ください。

【群馬県支部役員】

顧問	角田 達夫(昭49英)	
支部長	齋木 雄造(昭52国)	
副支部長	土屋 勇(昭57英)	池澤 博子(昭56初)
事務局長	島田実恵子(昭44初)	
監事	金沢 和子(昭54英)	鈴木 尚子(平2国)
庶務	古川 整(平11社院)	金井 幸光(平2初)
	松本 哲夫(昭50英)	遠藤真紀恵(平12初)

支部報告

千葉県支部長 川名 和則

令和七年六月二十九日、コロナや災害被害の回復事業等で開催できなかった念願の第十二回千葉県支部定期総会をポートプラザホテルにて開催することができました。

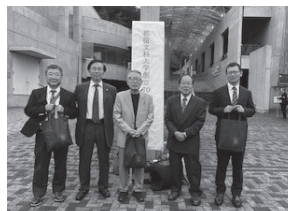
『次第』

- 総会
 - ①支部長挨拶
 - ②活動報告(学習会)(叙勲祝賀会：受勲者、野田純氏 国文学科卒『瑞宝双光章』宮木昇氏 英文学科卒『瑞宝小授章』受勲おめでとうございました。
 - ③活動計画(母校創立七十周年記念事業等)
 - ④会計報告 ⑤会計監査報告 ⑥新年度予算案
 - ⑦新役員・事務局員案の提示 ⑧その他、諸連絡等
 - *総会内容については、すべて可決されました。
- 講演会
 - ①講師紹介
 - ②副学長 佐藤明浩様：令和七年度入学手続き状況や学生の活躍の様子等のご紹介等
 - ③同窓会長 笹本忠彦様：第二十八回同窓会総会・七十周年記念事業のご案内等
 - ④記念撮影
- 懇親会
 - ①乾杯(佐藤副学長) ②歓談
 - ③校歌斉唱(長田照夫顧問) ④中締め(笹本同窓会長)
 - *佐藤明浩副学長並びに笹本忠彦同窓会長のご来賓

賓を賜り、大変貴重で有意義な総会を過ごせましたことに深く感謝申し上げます。

令和七年十月十一日、『色とりどりのミライへ。』をキャッチワードにした都留文科大学創立七十周年記念式典には、千葉県支部を代表して竹内昭顧問・長田照夫顧問・木村雅浩事務局長・加養孝善事務局長・川名和則の五名で参加し、式典後の早稲田大学特任教授、ロバートキャンベル氏と加藤敦子学長との対談講演も興味深く聴かせて戴きました。

さて、千葉県支部の『教員対策研修会』は、昨年と同様に三日間の実施となりました。会場提供していたいた関係校とボランティア講師の先生方にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。



七十周年式典会場にて



千葉支部総会

活動報告(活動を再会しました)

神奈川県支部長 大村 和明

神奈川県支部は、総会・懇親会実施後、新型ウィルスのため自粛を余儀なくされていました。

神奈川県には横浜市・川崎市・相模原市と三つの政令指定都市があり、他の市町村にも多数の卒業生が確認されています。また、大学の近くを流れる桂川が相模川と合流し県のほぼ中央を流れ、地理的にも県を2分しています。活動再開には止まっていた期間の名簿の確認から始めなければならなりませんでした。会員数が多数のこともあり、加除・訂正には多くの時間を要することとなりました。

同窓会本部・大学のご協力もいただき、本年5月にこの名簿確認作業に、一定の目途がつき、総会・懇親会を今秋には実施という方向で理事会の確認ができました。

7月には総会の案内を送付することができました。発送数は約1200、止まっていた時間の影響は大きく、住所不明が120と約1割ありました。また、個人情報の観

点を考慮して「今後は連絡不要・名簿から削除」この項目を返信の中に加えました。この希望者118でした。この作業を通して、次回の発送数を確認することもできました。

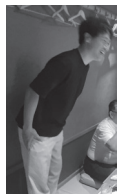
11月29日には同窓会長・学長の参加をいただき、総会と懇親会を実施することができました。また、「アカペラサークル・管弦楽団」の現役の学生がアトラクションに参加し、素晴らしい演奏を聴かせてくれました。懇親会の参加者は51、各自再会を喜び、昔話に花を咲かせ、楽しい時間を過ごすことができました。



会員の声を聞き、手づくりの活動を

富山県支部事務局長 三國 大輔

7月27日(日)、富山駅構内にある「八兆屋駅の蔵 富山駅店」で「若手教員を励ます会」を開催しました。3名の新規採用教員や役員を含め、計16名が参加してくださいました。当日は、



結婚された会員への祝品の贈呈、歓談、自己紹介等を行いました。在学中に取り組んでいた部活動やサークル活動だけでなく、都留の懐かしい飲食店等の名前が飛び交い、文大周辺にいるかのような楽しい時間を過ごすことができました。



実はこの会、かつての参加者の皆さんと話し合い、共に開催した「手づくりの会」だったのです。

令和6年度は11月下旬に開催を予定していましたが、参加者が集まらず、中止になりました。近年参加者が減少していたことを受け、「これまで参加された皆さんから率直な意見を聞き、会の在り方を見直そう」ということになりました。12月29日(日)、支部役員3名のほか、平成19～30年度卒

業の8名の参加により、話し合いの場をもつことができました。話し合いでは、毎年ではなく、「富山県支部の集い」を開催しない年度のみ実施とすることや、夏季休業中に実施することなど、参加しやすい会の在り方に変更することにしました。「友達を誘って行きたくなる内容に」「居酒屋やカフェ等、気軽に参加できる場がよい」。メンバーの発言が頼もしく、こちらが励まされる思いがしました。

令和7年度は富山市で開催することに。富山市在住のメンバーを中心に、夏の開催に向け始動しました。会場の予約等も手際よく進めてくださいました。

「若手教員とは何歳までか」という質問を受けます。今回のメンバーには勤務校や支部の活動を支える「若手中間」(メンバーから生まれた言葉)世代も多く、若手だけの会ではありません。次回から、都留にゆかりのある名称を織り交ぜ、「とやま桂川会」に改称することになりました。「若手中間」世代が若手教員を支える場となることを願っています。

会員は同窓会の活動に何を求めているのか、会員の声に耳を傾け、「手づくりの支部活動」を推進してまいります。令和8年度は8月8日(土)15時から、富山県民会館にて「富山県支部の集い」を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

問合せは事務局 dousokaitoyama@gmail.com まで。

能登半島地震と奥能登豪雨災害を忘れない

石川県支部長 中川 岳

石川県は1年前の令和6年元旦にM7.6最大震度7の大地震と9月に線状降水帯による豪雨という2度の災害で能登半島を中心に大きな被害を受けました。

コロナ禍を挟んで執行部を率いてこられた谷内誠一会長は輪島市のご自宅全壊という被害に見舞われ、今回、会長を辞されることとなりました。

私たちは今年度の総会を、今後の持続可能な同窓会活動を話し合う場と位置づけ、執行部から大きく3つのご提案をさせていただきました。①まだまだ復興とは言えない状況の能登半島へ同窓会として支援する事業について、②教授対策学習会を継続するとともに、大学在学生の石川県人会復活をバックアップする事業について、③現役世代の同窓会活動への参画拡大を目指した事業と、それらに伴う予算確保と規約改定についてです。提案すべてをご承認いただきホッとしております。

総会に際して、加藤敦子学長のご臨席をいただき、「都

留文科大学の現状と展望～70周年を迎えて～」という演題で講話いただきました。都留文大に期待も高まりましたが、私も含めて、数十年も都留に行っていない参加者にはあまりの違いに驚くお話ばかりでした。



(令和7年11月15日 片町きらら2F カルロ・チェントロ)

持続可能な『城山会』を目指して

福井県支部 山本 貞郎

令和7年11月15(土)、昨年度と同じ福井市内のパーティー会場にて、都留文科大学福井県支部同窓会『城山会』(しろやまかい)の総会および懇親会が行われました。

他県の方からすると、福井県はそれほど広い県ではないような印象を持たれているのではないかと推察します。しかし、実際は北東から南西にかけて意外に長く、県内の移動はなかなか大変です。それにもかかわらず、この日は県内各地より14名の皆さんにお集まりいただき、和気藹々の中で総会および懇親会が行われました。たくさんの同窓生が集まって盛大に開催できれば何よりですが、それは難しいのが現状です。常連のメンバーやお久しぶりの方が集まって、年に一度の再会を楽しむ……。そんな機会となっています。もちろんそれだけでよいと思います。細く、長く、持続可能な同窓会となるよう知恵を出し合いながらこの『城山会』が続いていけばよいと、皆さんとともに改めて確認した次第です。

さて、今年度からの新しい試みとして、同窓生数人が

集まって個人的に開催した懇談会(ミニ同窓会)の費用を、『城山会』から補助しようという取組を始めました。県内の同窓生が一堂に会するのは困難ですが、各所で近隣の同窓生が集まるのは可能かもしれません。ぜひ、この新制度を活用していただき、県内各地で都留文科大学の思い出話に花を咲かせていただきたいと思います。(この制度の詳細については、『城山会』事務局までお問い合わせください。)

都留文科大学同窓会福井県支部『城山会』を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



「教師の仕事はゴールド」 一都留の絆が紡ぐ、山梨の教育の未来－

山梨県支部長 篠原 利明

令和7年4月19日(土)、大学同窓会理事会の後に行われた「教師を志す在校生との懇話会」に講師として参加しました。山梨県での教員採用を目指す学生たちは、誰もが理想の教師像を熱っぽく語り、その輝く瞳が非常に印象的でした。

その際、私の勤務校の学区に住む学生と出会い、「もし良ければボランティアとして協力してくれないか」と声をかけたところ、翌週には「毎週金曜日に学ばせてほしい」と連絡がありました。それから一年、その学生は今も本校で子供たちの支援に力を貸してくれています。

実は、こうした縁は今回だけではなくありません。山梨県支部では毎年7月下旬、教員採用二次試験対策の学習会（小論文・模擬授業・面接等）を開催していますが、昨年度の参加学生も、その後ボランティアを経て、現在は私の勤務校で初任者として教壇に立っています。学習会で見せた爽やかな笑顔はそのままに、今は同僚として子供と共に学び、成長し続ける姿を頼もしく見守っています。

今年の学習会後には、参加学生から「不安が解消された。絶対に合格して、山梨の教育に貢献したい。」という力強いメッセージも届きました。また、本校での初任者研修の閉校式では、ある若手教諭が放った言葉が深く心に残っています。「教師は

ブラックだと言われることもあるが、私はそうは思わない。教師の仕事は『ゴールド』だと思っている。」

学生や初任者といった若い世代の真っ直ぐな言葉は、私たち現役教員にとっても大きな活力と勇気になります。これからも同窓会支部活動を通じ、未来の教育界を担う後輩たちの力になれるよう、支援の輪を広げていきたいと考えています。

令和7・8年度 山梨県支部役員

会 長 篠原 利明
副 会 長 中村 勝 小口 尚良
事務局 長 小澤慎太郎
事務局 次 長 山田 茂之 藤波 貴
監 事 浅川 孝夫 中山 栄二



祝創立70周年

長野県支部長 市村 一彦

令和7年11月16日(日)に諏訪湖畔のホテル鷺乃湯において第10回長野県支部総会を開催しました。加藤敦子学長と渡邊正司同窓会長にご臨席を賜りました。会員7名と共に盛大な会になりました。加藤学長の講話では、創立70周年を迎え、進化し続けている大学の現状やIR室設置や日本の地方を支える人材育成のことなどをお話いただきました。渡邊同窓会長からは、同窓会の現状や今後の戦略の話を中心に大学に対する思いをお話いただきました。卒業生800名の内、教員は200名とお聞きしました。各県へ戻って様々な業種で活躍している卒業生の姿を頼もしく思いました。参加した皆さんは、懐かしいあの1号館など共通の学び舎のことや学生時代の思い出、今の生き方と大学時代のつながりなど楽しく語り合いました。また、今も都留文時代の仲間と定期的に会っている話で盛り上がりました。まさに“一生続く出会いがある”我が母校です。改めて大学に対する思いの深さと都留文科大学で過ごした私たちの根底にあるつながりを確かめ合えたと思います。

70周年記念事業のキャッチコピーは「色とりどりのミライへ」

私たちもあれから色とりどりに人生を進んでいます。母校

が未来へ向かって進化していることを嬉しく思います。

来年度の長野県支部総会は東信で開催します。登録のメールアドレスに案内をお送りします。参加していただけると幸いです。

〈長野県支部役員〉

支 部 長 市村一彦(初教1989卒)
副支部長 柄澤 敏(初教1989卒) 岩崎 朗(初教2001卒)
事務局 長 大平 寛(初教2002卒)
監 事 金井親志(英文1986卒)



♪集える友の輪～美濃の国・飛騨の国からの便り～

岐阜県支部長 香田 静夫

“飛山濃水(ひさんのうすい)”。岐阜県の豊かな自然を象徴する言葉で、飛騨の山々と美濃の清流を表しています。ふるさとに暮らす、私たち都留大学同窓会岐阜県支部総会に参加した者たちは、おかげさまで元気にやっていることを確かめ合いました。

今年度は2年に一度の岐阜県支部総会開催の年。創立70周年の節目を迎え、支部の活動を一層充実させようと、総会とその後の懇親会は大いに盛り上がりしました。

都留市で行われた同窓会理事会及び総会等の報告のほか、学生時代を振り返ってのトーク、互いの近況についての交流など、世代を超えた仲間と時間を忘れて語り合いました。

＜令和7年度 都留文科大学同窓会・岐阜県支部総会／懇親会＞

〔日 時〕令和7年8月23日(土) 11:00～13:00

〔会 場〕グランヴェール岐山(岐阜市)

〔議 事〕令和6年度事業・決算報告、令和7年度事業・予算案及び役員改選(継続)についての議決

＜会 長＞ 香田 静夫(1985年度卒)

＜副会長＞ 河合 均(1984年度卒)

＜事務局 長＞ 成瀬 岳志(1986年度卒)

＜庶 務＞ 佐藤 真二(1972年度卒) 古川 一男(1981年度卒)

山口 敏則(1985年度卒) 河合のぞみ(2005年度卒)

＜監 事＞ 清水 久司(1978年度卒) 村井 一雄(1978年度卒)

＜顧 問＞ 山本 吉朗(1965年度卒)

＜学生時代を振り返って＞

理事会に出席するため20年ぶりに都留市に戻る機会をいただきました。思いがけない旧友との再会、大学周辺の街並み散策など、過去と現在が行き交う時間を過ごし、あったかい気持ちになりました。

さて、学生時代を振り返るとき、話題の中心は、きまって下宿生活、部活動(サークル)、アルバイトのこと。旧知の仲でさえ、同じことを、何度でも、いつまでも話が続きます。

〔下宿生活〕

4年間、黒部荘にお世話になりました。同居する先輩方は空手道部や剣道部の人ばかり。学食で会うたびに「ちわっす!」と大声で挨拶をしなければならず、たいへんな毎日でした。

〔部活動(サークル)〕

多くの所属は卓球部。ずっと補欠でしたが、先輩も後輩も皆さんが仲良くしてくださいました。時々体育会の真似をして学生服で飲み会に参加することもありました。新歓コンパ、引継ぎコンパ、追い出しコンパと一年中よく飲みました。

〔アルバイト〕

山梨県と言えば「桃のバイト」。仲間と一緒に、勝沼農協東雲支店に住み込みで働きました。毎日の朝食は、白飯とみそ汁に納豆か生卵のどちらかを選択するという質素なシステム。寝泊りは一人一畳分があてがわれた大部屋。桃は食べ放題でしたが、さすがに3日目には飽きました。当時は働き方改革という言葉もなく、働いて、働いて、働き抜いた20日間でした。



祝大学創立 70 周年

静岡県支部長 白井 泰

我が学び舎が創立 70 周年を迎えられました。おめでとうございます。式典にも参加せず失礼しました。県支部活動も相変わらずの状態で行っておりますが、卒業生の皆様のご健勝とご活躍を心より願っております。今回は事務局からの報告を掲載いたします。

「都留へ行きましょう 2025」を実施
—同窓会 line を立ち上げ—

静岡県支部事務局 星屋 康

学生時代のまとめ役から始まり、30代からの理事、定年退職をしてからの事務局として静岡県支部の仕事をさせていただいてます。横に長い静岡県で活躍している 1800 名を超えている会員を「つなぐ」ことを白井泰支部長を中心とした役員数名で考え続けています。

そこで令和 7 年 9 月 5 日(金)に、新幹線三島駅北口を集合解散とした「都留へ行きましょう 2025」を実施しました。これまでの役員、総会参加者、3 年前の会報誌の原稿を寄稿した会員などに呼びかけ、遠く浜松からの 4 名を含めた 80 歳から 26 歳までの 16 名の老若男女で中型バスに乗り、驚くほど大きくなった都留文科大学、山一会館、山梨県立リニア見学センターに向かいました。午前 9 時から午後 5 時半まで

の日帰りの計画でしたが、夏休み中の大学には午前 11 時に到着。駅を車窓から見学後の昼食懇親会、午後 2 時からのリニア見学、道の駅富士吉田での土産購入タイム。交通網の発達も実感しました。そして車内では「花のかげ」「武田節」「高校三年生」を歌うなど、短時間でも濃い親睦と懇親ができ、なんと「都留大同窓会」line 立ち上げ、現在情報交換をしながら、この line への会員登録を募集中です。静岡県内のみならず、line でつながりましょう。

〈連絡先〉 西部・大場孝純 053-835-4779
中部・江川初枝 054-292-2231
東部・星屋 康 090-1289-0902
白井 泰 090-2185-8147



令和 6 年度静岡県支部役員会

愛知県支部(県富岳会)この一年

愛知県支部長 加藤 俊行

令和 7 年 10 月 18 日(土)に、名古屋のホテルルプラ山にて、第 5 回愛知県支部(県富岳会)総会を実施しました。本会は規約により、5 年に一度の開催でしたが、コロナ禍でしばらく延期を余儀なくされ、今回は 10 年ぶりの開催となりました。

当日は、加藤学長をお招きして、大学の現状と展望を演題に、ご講演をいただきました。県下 7 地域、OBを含めた 49 名の同窓生が、再会を喜び、旧交を温めたり、新たな出会いがあったりと大いに盛り上がりました。最後は学生歌「花のかげ」を熱唱して閉会しました。

教員採用選考試験に関しては、愛知県の高校受験希望者 1 名と支部長とで、面談・学習会を行いました。学生からの連絡がないと、支部の方では把握が難しい現状があります。次年度以降、受験希望者からの連絡が増えることを期待したいと思います。

【令和 7 年度支部役員】

支部長 加藤 俊行(名古屋 S63 初教)

事務局長 加藤 由恵(名古屋 H3 初教)

地域幹事	名古屋	美頭 伸洋(H10 初教)
	尾 張	土屋 ゆり子(H4 初教)
	知多・海部	富田 崇(H3 初教)
	西三河	豊岡 孝江(H12 社会)
	豊田・みよし	田口 真穂(H5 英文)
	新城・設楽	石田 浩三(H10 初教)
	東三河	大木 健(H9 初教)



【令和 7 年 10 月 18 日 県支部総会にて】

支部設立 20 周年を迎えて

三重県支部長 田畑 繁行

8 月 23 日、三重県教育文化会館において会員 18 人の参加のもと令和 7 年度(第 20 回)の支部総会を開催しました。当日は、来賓として一昨年に引き続き大学から加藤学長をお招きしました。

例年の通り、理事会・事業・会計報告、役員紹介が行われ、次に 7 年度の事業計画・予算案が承認され、総会は終了しました。

総会後の記念講演は、加藤学長に「都留文科大学 70 周年を迎えて」と題してお話をいただきました。臨時教員養成所から始まり、現在の大学へと発展してきた歴史等を、スライドを交えてわかりやすく話していただきました。

総会後の懇親会にも学長に参加していただきました。参加者はそれぞれの学生時代にもどり、大学や都留の町・下宿を懐かしみながら、終始和やかな雰囲気での楽しい時間を過ごすことができました。

また、今年度は支部設立 20 周年を迎えることから、記念行事として「母校を訪ねる旅」を企画し、10 月に大学へ行きました。大学では、70 周年を記念して作られた大学紹介の DVD を視聴し、その後、職員の方に大学内を案内していただきました。最後には、学長室で学長とお話をさせていただきました。また当日は、富士山の初冠雪を眺めることができ、参加者は 2 日間のんびりと楽しい心休まる旅をすることができました。

来年度の総会は、8 月下旬に開催を予定しています。たくさんの方の会員の皆様の参加をお待ちしております。

令和 7 年度 三重県支部役員(卒年)

会 長	田畑 繁行(S54 初)
副 会 長	八重 篤敏一(S55 初)
	南 勝雄(S54 初)
監 事	宮崎 弘子(S56 初)
	一木 尚子(S52 初)
事務局長	六田 嘉郎(S57 初)
会 計	松岡 みつ子(S56 初)
会 務	熊谷 道代(H12 初)
顧 問	福田 和幸(S46 国)



滋賀県支部 結成13年 第10回支部総会と懇親会を実施(コロナ禍で3回中止)

滋賀県支部長 松嶋 孝雄

滋賀支部が結成され13年が経過しました。年1回の総会・懇親会も、コロナ禍で中止もありましたが、今年も開催することが出来ました。

令和7年8月17日に、私の住まう長浜市の北ビワコホテルグラツィエにおいて、事務局長様のご尽力により、「令和7年度滋賀支部同窓会の総会と懇親会」を開催することが出来ました。我が支部事務局には大変な努力をして頂いています。開催回数は10回になりました。参加者数は、コロナが、「新型インフルエンザ等感染症」から「第5類感染症」への移行後2年が経過しているもので、今年こそ過去の参加者数より多人数となるのではと期待していました。けれども、例年より少し増えた人数で開催されました。新しい先生方にも参加頂きました。そうした経過の中で、コロナ禍の3年間の社会の変わり様の一端を垣間見たようにも思いました。私は、公的立場を退いてほぼ10年、退職後の教師との接点が多く、現職の先生方と親しく話すことは無く、学校現場の現況に驚きました。「20代後半の研究主任」「中高年の教師が激減」等。私も15年前の退職時にも、多少は現在の状況を予想をしてはいました。しかし、これほどとは想像だになかったことでした。

滋賀県でも教員志望者が減り、採用試験のあり方が、大きく変化しているようです。今後が気になる滋賀の教育界です。



滋賀県支部役員

支部長	松嶋 孝雄	(昭和46年度教卒業)
副支部長	大澤 裕	(昭和56年度国卒業)
会計監査	塩屋 勝志	(昭和57年度教卒業)
	鳥飼 雅一	(昭和63年度教卒業)
事務局長	中村 雅昭	(昭和58年度教卒業)
事務局員	明石 誠	(昭和57年度教卒業)
	村田 良文	(昭和58年度教卒業)
	清水 一範	(昭和60年度教卒業)

京都府支部第9回総会・懇親会を終えて

京都府副支部長 北村 友子

去る12月7日(日)に、JR京都駅前の都ホテル京都八条にて、総会・懇親会を開催しました。当日は、府内各地から19名の参加があり、今回も盛大に開催することが出来ました。昨年は、当支部結成10周年を記念して、念願の夢であった都留へのバスツアーが実現でき、まだその余韻が漂う中、今回も参加者それぞれに懐かしい都留での思い出話に大いに花が咲き、時の経つのも忘れる思いでした。特に、昨年の都留へのバスツアーの折に、参加者みんなで確認できた言葉として、「都留愛」が、再びよみがえってきたひと時となりました。

思えば今回の参加者も同じ年代を都留で過ごしたわけではなくても、参加者それぞれが、都留でのキャンパスライフに戻ったような思いを抱きながら、お互いに都留へ行った気分になることができ、本当に心地よい場であると改めて実感しました。

そして今回も最後には、参加者全員が輪になって、「花のかげ」を声高らかに歌える喜びをかみしめることが出来ました。

次回は、ぜひとも新たな会員の方々にも参加いただいて、「都留愛」の輪が更に広がり深まることを心から願っています。

【京都府支部役員】

支部長	栢谷 雄三	(S45年卒)
副支部長	北村 友子	(S49年卒)
事務局長	草野 真	(S52年卒)
会計	森 弥生	(S57年卒)
庶務	梅原 寿夫	(S63年卒)
	岡田 典之	(H01年卒)
	平山 孝次	(H04年卒)
	小谷 聡	(S61年卒)
	松浦 崇	(H10年卒)
	黒木 律子	(S58年卒)
	村田 隆史	(H19年卒)
会計監査	荻生 佳子	



会員の絆を深めることができました。 ～大阪府支部「総会・懇親会」開催報告～

大阪府支部事務局長 高橋 康一

コロナ禍の一時期は開催を見合わせていましたが、大阪府支部では総会・懇親会を令和5年度以降再開しています。年に一度のことですが「お久しぶりです。」「お元気でしたか。」「今は何をしているの。」などのあいさつが交わされ、だんだんと賑やかさが増していくのはお決まりの流れです。各支部からの報告にもあるように若い人たちの新規加入が課題となっていますが、大阪府支部では久しぶりに新たなメンバーを迎えることができました。しかし、その一方で会員の高齢化が進んでいます。

以前は現役世代が多かったため、勤務時間に配慮して夕方以降の開催で集まりやすい交通アクセスのよい会場を選んでいました。しかし、現役世代も減ってきたため最近では昼の時間帯で風光明媚な郊外にて開催するスタイルへと変更しています。

今の会場は歩くとアップ・ダウンはありますが駅から比較的近く、送迎バスも利用することができます。また、広いロビーでしばらく景色を眺めながらソファに座って待ち合わせをすることもできます。さらに、総会の前後に天然温泉の大浴場も利用可能です。

懇親会でのメニューも以前なら肉料理がメインでしたが、このところは山海の食材を生かした和食膳へとチェンジしまし

た。食事会場も広く、使用時間もゆっくりめで設定して、出席者どうしがくつろぎながら会話を楽しめるようにしました。

総会・懇親会では杉中同窓会副会長からの大学の近況報告、各会員ご自身の近況報告のほか、学生時代のさまざまなできごとや懐かしいことも出席者からたくさん話していただくことができました。年長の会員の方からは短期大学のころのようすもお話しいただけ、わたしたちの大学の長い歴史をも感じました。

こうした話からわかることは、さまざまな時代をそれぞれの世代の卒業生がそれぞれの持ち場で支えてきたということです。この誇りを同窓会の支部活動にも反映しつつさらなる充実へとつなげてまいります。



絆を紡いで、これからも

奈良県支部長 辻 明彦

このたび、奈良県支部長を拝命いたしました辻 明彦(1985年/英文学科卒業)と申します。微力ではございますが、皆さまのお力をお借りしながら、奈良県支部の活動をより一層充実させてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、去る8月24日に第11回奈良県支部総会を開催いたしました。当日は残暑の厳しい中にもかかわらず、10名の会員がご出席くださいました。参加者はやや少なめでしたが、久しぶりの再会に笑顔があふれ、和やかな雰囲気の中での開催となりました。近況報告や学生時代の思い出話などで大いに盛り上がり、あっという間のひとときでした。

皆さまそれぞれの分野でご活躍されている様子をうかがい、刺激を受けるとともに、同窓の絆の温かさを改めて感じる時間となりました。

今後は、皆さまがより気軽に集えるような奈良県支部を目指し、世代を超えてつながりを広げていければと思っております。引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年度支部役員

会 長 辻 明彦

副会長 池田祐之、清水直樹

監 事 廣瀬信彦

理 事 岡田善英、高橋 強、山本泰彦、石田好庸、米田悦子



※奈良県支部では、卒業生の把握が不十分なため、皆さま全員に総会等の案内ができておりません。大変ご迷惑をおかけしております。同窓会奈良県支部に関しまして興味・関心のあられる方は、以下のアドレスまで連絡をいただければ幸いです。

辻 : akihiko20042000@yahoo.co.jp池田 : kp88656@gmail.com

和歌山県支部近況

和歌山県支部長 谷口 博保

令和6年の正月早々の能登半島の大地震に始まり、夏の猛暑、豪雨災害と自然の脅威を見せつけられたことは記憶に新しいところですが、令和7年も台風の影響による大規模な風水害や大火も発生しました。被災状況を報道で知る度に胸が痛む思いです。少しでも早く、平穏な日々が戻りますよう願っております。

さて、令和7年度の県支部の活動は令和8年3月1日(日)に開催する和歌山県支部創立10周年記念総会開催に向けての活動が主でした。

3/5	総役員会・昼食会(10名) 10周年記念総会概要について協議
3/25	事務局会(2名) 総会会場確認および折衝
6/2	役員会(5名) 総会運営について協議①
10/2	事務局会(3名) 総会運営に係る打ち合わせ
11/30	総役員会・昼食会(11名) 総会運営について協議②

3/1	県支部創立10周年記念総会 (ホテルグランヴィア和歌山)
-----	---------------------------------

今回は学長をお迎えしての総会を予定しており、会報誌が届く頃には終えていることと思います。

さらなる活動の充実を模索しているところですが、南北に長く山間部が多い地域特性のため、会場への移動に時間と費用がかかり交流がしづらいこと、新規会員の動向の把握が困難なことなどが悩みです。できるだけ参加しやすい状況を工夫し、親睦を図るとともに交流を深め、楽しい和歌山県支部をめざしたいと思います。

(2025.11.30 総役員会)



時代は変わる

鳥取県支部長 西田 智貴

「新幹線のチケットがない!」冷や汗と動悸がどっと襲ってきた帰路……今やネット上でチケットを管理する時代となったらしい。仕事上では紙ベースが減ってきたことを受け入れ、喜ばしく思っていたのに。旅券は相変わらず駅の窓口で手にとるのが安心なのだ。今回の都留の旅では他にもビックリがあった。

泊まるはずの学生会館がない! 加齢のため痛むヒザを引きずりながらうろうろ……道行く学生に問うても「?」の表情、問い合わせても理解不能……結局あの「あずま」だったところが学生会館になっていたとつぎとめた時にはへとへとになっている始末であった。

あの頃、だいたいのことは「人」に聞けば、「答え」があったが、今はSNSの取捨選択の能力により欲しい「答え」を得るらしい。昭和の脳みそが「変なの!」と拒絶反応を出す。

さて、同窓会では八十代~三十代の十数名の仲間が近況と思いを発表し合うということになっている。先輩方の生き様やこれからの生き方についてと内容が変わりつつある。都留での思い出は根底にありつつ、培ってきたいろいろの思いを交換し合う会となっている。現教員より元教員が多く、全く別の職種の方々からの出席を皆さんは懇願している。教員の

会ではなく、都留で学んだ仲間の会への変化をしていく時期にきている。鳥取の卒業生の方々にこの気持ちが届いたら嬉しい。そして、リモートやメールではなく、顔を見て、話が見えたいと思う。

そうそう、この会の出欠も、ハガキではなくコード読み込みでできるように、事務局長の谷口氏がちょよいのちょいとして下さった。会の在り方にもこういう時代の流れがとりこまれている。

話を戻そう。チケットは善良などなたかのご厚意により拾われ、駅に到着するまでに手配されていた。人の情をまだ信じられるのかと、感謝と感動の旅のしめくりであった。何でもかんでも「ケータイ」だが、顔見て話して泣き笑いの同窓会を大切にしたい。



島根県支部役員会

島根県支部長 大島 英明

令和7年10月25日(土)に、都留文科大学同窓会島根県支部役員会を開催しました。

昨年度、会長をしておられた小藤貢さんが体調不良ということで、今年度から支部会長を大島が引き受けさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。また、副会長には新たに松林久美さんになっていただきました。会議では、理事会の様子をお話したり、新たにインスタを開設したことをお知らせしたり、役員の連絡網としてのグループLINEを作成したりしました。

会議後の懇親会では、みなさんと昔の都留での思い出や近況などを報告して、楽しいひとときを過ごすことができました。

私事では、暫定再任用教諭として地元の小規模校で、5年生8名の担任をさせていただいています。この学校は妻が以前勤めさせていただいていた学校ということで何かの縁を感じています。(ちなみに前任校は、母が勤めていた学校でした。)

島根県では、児童数の減少により小中学校の再編成が行われようとしています。校区が広がることで、その地域の特徴をいかした教育課程が組みにくくなっていくことを危惧していますが、これも時代の流れなのでしょう。

令和8年には、「総会」を開催する予定です。名簿を再編

成し、地域ごとに呼びかけてできるだけたくさんの方のみなさんに参加していただきたいと考えています。総会に向けて、しっかりと準備を進めていきます。よろしくお願いいたします。

以下、現在の役員を紹介します。

◎島根県支部役員(卒業年度)

- 顧問 木村晴男(S44)・小藤 貢(S45)
 ○支部会長 大島英明(S59)
 ○副会長 服部哲郎(S44)・松林久美(S53)
 飯島良子(S53)
 ○理事 伊藤 博(S44)・榎野博巳(S45)
 ○幹事 花田俊成(S48)・田中量雄(S53)
 ○事務局長 堀江博生(S59)



楽しいつどいをめざして

岡山県支部長 関野 茂夫

岡山県でも小学校では、タブレットがプレゼンづくり、理科での成長記録、社会科や生活科での調べ学習など学習のさまざまなところで活用され、多様な表現方法がごく自然に身についています。驚くべきことです。

現在の大学のパンフレットには、最先端の環境で人材を育てようというアイデアがいっぱいで頼もしさを感じます。

さて、岡山県人会も同窓会の参加者数の増加に結びつけたいとなかなか訪れることがない現在の大学や都留のまちの風景をスライドにしてみんなで見たり思い出話を語ったりしてそれぞれがタイムスリップした時間を過ごしました。何年経ってもあの風景の思いは変わらないですね。

もう一つ、得意を披露しようという企画で地域のカルチャースクールで講師として活躍されている先輩に朗読を披露していただきました。一堂が朗読の世界にうっとりしていました。よい思い出になりました。

参加者が参加したくなる楽しい会を目指した第一弾でした。今後も楽しい会になるようにいろいろな企画を考えて行きたいと思います。多くの方々のご参加をお待ちしています。

右記の方々に現在の役員をしていただいています。

【役員】

- 顧問 原田直樹 菱川 徹
 支部長 関野茂夫
 副支部長 中野元雄
 理事 岩城孝志 金池兼広 野崎博子
 監査 廣田巨史 竹内真二
 事務局 金池兼広 竹内充子 野崎博子



(令和7年2月1日 ピュアリティまきび)

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今後の同窓会のために・・・

広島県支部長 白石 隆

令和7年6月21日(土)に役員会を開催するとともに、同年8月17日(日)、広島市内において通常総会を行った。

総会では、元三和小学校校長の山本剛久氏を講師としてお迎えし、演題「一番若い被爆者として・今、言っておきたいこと」について貴重な話をしていただいた。被爆80年の節目に、忘れられない原爆の体験談をとおして、引き継がねばならないことを再認識させられた。ヒロシマは、ナガサキとともに、平和教育が段階的、継続的に行われているものの、継承することの難しさや形骸化等がささやかれている。都留文科大学は、全国の教育界に貢献してはいるが、時代の流れとともに、戦争を知らない世代になってきたこと、教員希望者が著しく減少してきたこと等により、職種の多様性が顕著となっている。

そこで、広島県支部においては、設立当初の目的「県内会員の相互の親睦を図り、都留文科大学の発展に寄与すること」を達成するため、様々な職種の同窓生が気軽に参加でき、気楽にかかわれる同窓会を目指している。そのために、同窓会は“何ができるのか”、“どうすることがよいのか”、“どの

ようなことをすべきか”等について、役員を中心として協議し、方向性を示すべき時期になってきているのではないだろうか。

一人でも多くの会員が、広島県支部に対する所属感をもってつながり、かわりを深めていくことができれば、必然的に同窓会が「充実」し、「発展」していくであろうと考えるのである。



令和7年度 都留文科大学同窓会 広島県支部 通常総会にて

都留への旅(創立70周年記念式典に参加して)

愛媛県支部副会長 高智 久子

都留文科大学創立70周年おめでとうございます。

愛媛県支部を代表して、藤田副会長と私の2名が記念式典に参加いたしました。大学創立の年に生まれ古希を迎えた私には、二重の喜びとなりました。

支部から旅費の補助をいただき、空路羽田へ。新宿から高速バスで河口湖へ。バスの車窓に都留の街並みが見えると、あゝ帰ってきたんだなあと、懐かしさが込み上げてきました。前日から河口湖に宿泊。富士山は、笠雲のかかった雄大な姿で迎えてくれました。当日の午前中、短時間でしたが、「河口湖音楽と森の美術館」を訪ね、オルゴールの美しい音色を堪能しました。そして、式典に間に合うように、富士山ビュー特急で都留文大前駅へ。会場まで車で送っていただきましたが、途中、つるフィールド・ミュージアムやTHMC、広場での



イベントに楽しそうに交流する学生と地域の人々の姿を眺め、都留文科大学は地域に根ざしてともに発展する大学なのだと、改めて実感することができました。

記念式典は、厳粛な中にも心温まるものでした。卒業生としての誇らしさと支部としての更なる支援の思いを強くしました。

ロバート・キャンベル氏の講演では、国内外(特にウクライナ)の見聞に基づくお話を伺う機会を得て、心に残る貴重な時間となりました。

その後の行事には、時間の都合で参加できませんでしたが、記念行事に関わられた皆様に感謝しながら、会場を後にしました。

今回の愛媛県支部の総会では、記念式典の様子と進化し、変貌を遂げる大学の姿を報告したいと思います。そして、次の都留への旅は、改修され新しく生まれ変わった1号館を訪ねる旅にしたいと願っています。



2025年四万十で

高知県支部事務局 和田 恵

都留文科大学創立70周年、おめでとうございます。

大学を卒業して55年もの年月が経ち、改めて人生があったという間に過ぎ去ったなと感慨深い思いです。私が入学した頃はまだ創立10年ほどしか経っていない新鋭の大学でした。

2025年8月3日、新ロワイヤル四万十ホテルで都留文科大学同窓会高知県支部総会・懇親会を行いました。実はその前年同場所で2024年度の総会を準備していたのですが、参加予定者複数人が体調を崩し、直前に中止を決めたのです。翌年の今年、同場所で再度総会の計画をし、7名の参加者で無事開催することができました。同窓会参加者が固定され、高齢の方が多いなか、今年は現役教職員が1名参加され、フレッシュな教育現場に触れることができました。また、退職されてもそれぞれの地域で有意義に活動され、生きいきとした様子に参加者一同豊かな気持ちになる一日でした。

高知県支部の総会は、長年8月の第一土曜日に開催されていましたが、近年ははずせない他行事と日が重なり参加できない方がいましたので、次年度は一人でも多くの方が参加できる日程や場所を考慮することとなりました。

毎年懐かしい方々の元気な笑顔に再会できる同窓会・懇親会が続くことを願っています。

【令和5年度～7年度支部役員】

顧問 清岡 典代

会長 前田 志郎

副会長 東 明夫・榎並谷典容

理事 楠瀬 弥生(東部)・今橋 英二(中部)

事務局 和田 恵

監査 和田 剛一



～西の地・長崎から～

長崎県支部長 太田尾(松本) 透一郎

開学70周年、誠におめでとうございます。

初めまして。今年度より長崎県支部長をさせていただくことになりました太田尾です。どうぞよろしくお願いいたします。長年、支部長を務めていただきました平山繁壽先生と、事務局長を務めていただきました渡邊林先生に、改めて支部会員一同感謝の思いを強くしているところです。

4月理事会出席のため、初めて大学駅前に降り立った時、大学までの道がわからなくて、まごついていたら、ちょうど通りかかった文大男子学生が親切に道案内してくれて助かりました。見た目は今どきの学生さんでしたが、温かさは50年前の時代と変わらないなあと、何だか嬉しくなりました。

大学内は立派な棟が立ち並び、我々の在学時とは隔世の感がありました。理事会は多くの方々が出席されていて、活発な討議が為され、新鮮に感じました。

今年は、開学70周年ということで、記念行事等も盛大に行われ、大変喜ばしいことです。ただ、思い出のある1号館が改修されるということには、一抹の寂しさを覚えます。全体懇親会、宿舎での有志の集い、初めてお会いする方々ばか

りでしたが、楽しい時間を過ごさせていただきました。

7月26日、本年度の長崎県支部総会・懇親会を長崎市内のホテルで開催しました。7名の参加で、人数的には少々もの足りなかったですが、在学時の昔話や現況話題で盛り上がり、和気藹々と和やかで楽しい一刻を過ごしました。

最後は、母校都留文科大学の益々の発展と、長崎県支部の拡がり、つながりを願い、大きな声で、学生歌「花のかげ」と「武田節」を、みんなで合唱し、来年の再会を誓い、各自の健勝を祈って、お開きとなりました。



支部総会・懇親会開催

熊本県支部長 杉水 修

今年度は7月に役員会を開き、10月26日(日)には2年に一度の支部総会と懇親会を開催しました。総会ではこの2年間の活動報告・会計報告と、役員の一部改正について協議をして承認されました。

支部総会後は熊本城の天守閣がよく見えるテラスで記念撮影をしました。熊本地震の後、復旧工事が完了するには30年ほどかかるそうですが、天守閣は他の櫓群等に先駆けて令和3年に完成し、力強く美しい姿を見ることができるようになっています。

記念撮影の後は懇親会を行いました。前回好評だったので、今回も山梨からワインや日本酒等を取り寄せてみなさんに味わっていただきました。しばらく歓談した後は、参加者17名全員が近況報告をして、恒例の武田節をみんなで歌って締めくくりとなりました。

【令和7年度役員】

会 長 杉水 修

副 会 長 池田 由美 田山 智雄

事務局長 田山 智雄(兼任)

会 計	梶原 圭一	荒木 愛
監 査	西釜 裕子	由美(兼任)
企画担当	池田 由美	寛裕
青 年 部	谷方 寛裕	
地区委員	松村 誠一	山邊 健二 田山 智雄(兼任)
	白木 憲昭	俵 尚貴 坂本 彰
	高倉 利孝	
顧 問	永田 好文	



支部総会・懇親会開催

宮崎県支部長 取附 義弘

宮崎県支部は、活動の主眼を会員相互の親睦と福利厚生を図ることに置き、さらに母校の発展に寄与することを目的に平成9年10月25日に結成しております。

本年は、2年ぶりの開催となる支部総会及び懇親会を11月22日(土)宮崎ひまわり荘において開催しました。

総会では県北：延岡市から、県西：都城市の方までご参加くださいました。議事も、皆様にご意見や知恵を戴き、スムーズに進行することが出来ました。

総会後の懇親会では、加藤学長からのメッセージや大学の近況に、リニアモーターカーの疾走する町並み、町中を駆け下る清流や楽山からの眺望を脳裏に浮かべ、時を忘れ大いに盛り上がりしました。

また、記念講演では「鎖国を破った自由人 おらんだ貞」を本会会員の古川久師氏より、行っていただきました。幕末をテーマとした新作の出版を心待ちにしております。

ます。

今回の総会にご都合がつかず、欠会を余儀なくされた方々に、来年(2027年)支部結成30周年の次回総会でお会いできることを楽しみにしています。会員の皆様をはじめ、ご家族の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げましてご報告に代えさせていただきます。



鹿児島桂川会総会を終えて

鹿児島県支部長 本田 武久

鹿児島県支部は、令和7年7月26日(土)、支部総会・懇親会を鹿児島市のホテルで開催しました。4年振りの総会に向けて、4月29日(火)、7月13日(日)に支部役員会を開き、総会の盛会を期して、精一杯の努力をしてきました。コロナ禍の4年間は、支部組織の拡充を期して、会員名簿の充実にも努め、個人情報保護に留意しながら、各会員の意識把握に努めてきました。支部活動に対する参加意識等のアンケート等も実施しましたが、会員の高齢化が年々進むと共に、若手会員の組織離れが進み、支部活動への参加意欲が想像以上に希薄化が進行している現実がありました。温かい人間関係と豊かな自然環境の中で過ごした世代の都留での生活と少々感覚を変えながら、今後の支部活動に対峙しなければならないのかも知れません。コロナ禍での活動休止期間の影響も大きいものがあるにしても、今後の支部のあり方も一考を要するものと思われます。



(令和7年度支部役員)

支部長 本田 武久(昭和43年度卒)

副会長 大山 典男(昭和45年度卒)

副会長 水流 広之(昭和55年度卒)

事務局 橋野三智男(昭和59年度卒)

事務局 中村 智子(平成元年度卒)

監 事 平澤 泰明(昭和41年度卒)

監 事 室屋 綾(平成2年度卒)

令和7年度沖縄県支部報告

沖縄県支部長 比嘉 正夫

2025年12月7日支部役員会を持ち、様々懇談的に話し合いを持ちました。

支部長比嘉正夫、顧問金城宏安、副会長伊波聡、事務局長親川光倫、会計山入端秀章が出席。

まずは本部同窓会に参加した事務局長から、大学に行った際に現役学生と懇談し、沖縄県人会はコロナの後、組織が立ち上がってなく、今後組織作りの必要性などについても話し合いを行った。また県内においてもラインで呼びかけ、卒業生との懇談会を2回持ち、話し合いが行われた。また大学内において沖縄出身者への連絡の方法もあるようである。支部総会だけに限らず、様々な機会に同窓生との繋がりを作り、会員の掌握にもつなげていきたい。

金城顧問からは大学創立70周年記念誌作成に向けてインタビューを受けた報告がありました。教員養成学校の時代、沖縄出身者は金城さんと女性が3名在籍していた。山梨県のラジオ放送に出演したことが縁になり、沖縄に戻った後アナウンサーになり、私たちはよく知っていますが、県内で相当に活躍をし、名前は知れ渡っている。初代沖縄県支

部長を務められた。顧問からは若い人の感覚を活かして支部同窓会活動を進めて欲しいとの話があった。

懇談の中では、県支部の会員の掌握を進めながら会員の現況を知り、連携を深めていきたい。互いの協力関係を持ちながら、大学現役学生への支援もできるようにしたい。

今後、支部同窓会の充実と大学への協力について取り組んでいきたい。



部 活 動 紹 介

令和7年度 邦楽部息吹代表 櫻本 夏海

私たち邦楽部息吹は毎週火曜日・金曜日に活動しています。息吹は箏・三味線・尺八による演奏をする部活です。経験者もいれば、大学生になって初めてやるという部員も在籍しています。今年度も七夕コンサートの開催・桂川祭での演奏を行いました。七夕コンサートは宣伝に力を入れ、例年より多くの集客に成功しました。桂川祭は二日間出店したことで、たくさんの人に邦楽の素晴らしさを伝えることができました。加えて、11月末に学外で演奏発表を行いました。学外での演奏はコロナ禍開けてから初めてのことで、参加したのは一年生が中心でした。それぞれ日頃の練習の成果を十分に発揮した良い演奏を行うことができました。

文大にはいくつも音楽系の団体がありますが、その中でも息吹は認知度が低い方という印象を受けます。和楽

器の魅力と共に、「邦楽部息吹」という団体をもっと知ってもらえるように、これからも活動を続けていきたいと思っています。



令和7年度 書道部代表 土井 健太郎

書道部では、外部展覧会や桂川祭パフォーマンスに向けた練習に日々励んでいます。書道部には経験者から初心者まで様々なレベルの者が活動していますが、師範代を持つものが部員にアドバイスをを行うなど、お互いに切磋琢磨しながら活動しています。

令和7年度では、「学内・外部のパフォーマンスの機会を増やす」という方針のもと、様々な場でパフォーマンスを行いました。河口浅間神社での桜まつりパフォーマンス、大学70周年記念事業やオープンキャンパスなど様々な場で行う事ができました。

そして、来年度の三月には愛媛県四国中央市で行われる、「全日本パフォーマンス選手権大会」に出場することとなり、今までのパフォーマンスで得た経験を存分に活かせるようにしていきたいと思っています。まだまだ練習が足りない部分もありますが、大学時代の最高の思い出に

残るよう、日々の練習を全力で取り組みたいと思います。

今後とも、日々向上心を絶やさず取り組みたいと思いますので、ぜひ応援していただけると幸いです。



同窓会支部登録のお願い ～都留文科大学同窓生の皆さんへ～

同窓会支部は、現在41支部となり、それぞれの支部が支部長さんを中心に、独自の活動をしているところです。同窓会本部でも、本同窓会の目的であります「大学の発展への寄与」と「会員相互の親睦」に向け、交流や情報交換ができる「都留文科大学同窓会」に育て上げるよう誠心誠意努力をしていきたいと考えています。

さて、これから各支部、また同窓会を充実したものにしていくなめには、同窓生の皆さんの力が必要です。

そこで、同窓生の皆さんにお願いです。下記QRコードを読み取ると、各支部のメールアドレスが表示されますので、支部へ連絡をしてください。そして各支部活動の様子を知っていただき、活動に参加していただきたいと思っております。

支部活動を盛り上げ、同窓会をさらに充実させるためにも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



氏名・住所変更はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAX でお願ひします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須事項及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合は、はがきは自己負担をお願いします。

1 ホームページ

(1)ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会氏名・住所等変更届]にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。

都留文科大学ホームページ

URL: <https://www.tsuru.ac.jp>

(2)ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のパスワードが必要となります。

パスワード: tbdh2206 (半角英数)

※同窓会会員以外による不正使用がないよう、パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。



2 E-mail にて送信

E-mail: dousokai@tsuru.ac.jp

3 FAX・郵送

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1

都留文科大学同窓会 宛

TEL 0554-43-4341 内線206

FAX 0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名(フリガナ)／旧姓	現住所／電話番号
卒業年・学科	勤務先名
生年月日	勤務先住所／電話番号
	勤務先の役職

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合がありますらご連絡ください。

令和6年度 都留文科大学同窓会会計収支決算書

◆収入の部

(単位: 円)

項 目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備 考
入 会 金	4,545,000	0	4,545,000	4,545,000	909人×5,000円=4,545,000円
終 身 会 費	9,090,000	0	9,090,000	9,090,000	909人×10,000円=9,090,000円
繰 越 金	3,482,628	0	3,482,628	3,482,628	令和5年度繰越金
雑 入	60,000	0	60,000	50,481	預金利息、理事会懇親会御祝儀
収 入 合 計	17,177,628	0	17,177,628	17,168,109	

◆支出の部

(単位: 円)

項 目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備 考
事 業 費	9,670,000	0	9,670,000	8,695,762	
会 報 発 行 費	4,000,000	20,000	4,020,000	4,011,872	同窓会報第43号(令和6年度発行)
支 部 助 成 金	3,800,000	0	3,800,000	3,680,000	東京 神奈川 山梨 長野 静岡 愛知 720,000円(@120,000円×6支部) 北海道 岩手 宮城 千葉 富山 石川 岐阜 兵庫 880,000円(@110,000円×8支部) 山形 栃木 群馬 福井 三重 大阪 岡山 広島 徳島 900,000円(@100,000円×9支部) 青森 京都 和歌山 島根 愛媛 長崎 鹿児島 沖縄 720,000円(@90,000円×8支部) 滋賀 鳥取 熊本 宮崎 320,000円(@80,000円×4支部) 奈良 高知 140,000円(@70,000円×2支部)
支部設立準備金	300,000	0	300,000	0	
新入学祝費	700,000	10,000	710,000	703,890	新入生記念品
支部旗作成費	120,000	0	120,000	0	
教員採用試験学習会費	450,000	△30,000	420,000	200,000	富山 宮城 千葉 兵庫 群馬 山梨
被災地支援活動費	300,000	0	300,000	100,000	支援金(石川)
会 議 費	2,000,000	0	2,000,000	1,832,973	
総 会 費	0	0	0	0	
理事会会費等	2,000,000	0	2,000,000	1,832,973	
同 窓 会 本 部 費	2,550,000	0	2,550,000	1,747,622	
事 務 費	250,000	0	250,000	169,676	
運 営 費	1,850,000	0	1,850,000	1,315,946	事務資金負担金700,000円含む
慶 弔 費	340,000	0	340,000	152,000	入学・卒業式祝い生花代ほか
本部役員活動費	110,000	0	110,000	110,000	令和6年度役員報酬
積 立 金	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	大学創立記念事業基金
予 備 費	957,628	0	957,628	0	
支 出 合 計	17,177,628	0	17,177,628	14,276,357	

(収入済額) (支出額) (収入・支出差引残高額)
¥17,168,109 - 14,276,357 = 2,891,752

◎令和6年度 基金積立及び取崩状況

◆財政調整基金積立金額	0円
◆大学創立記念事業基金積立金額	2,000,000円
積立金合計額	2,000,000円
◆財政調整基金取崩金額	0円
◆大学創立記念事業基金取崩金額	0円
取崩金合計額	0円

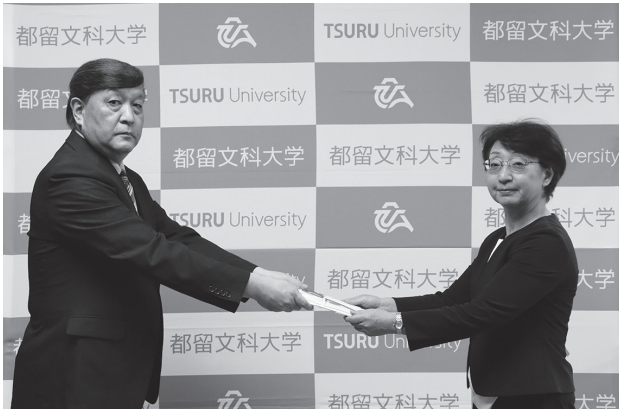
令和6年度末 基金の内訳

財政調整基金	5,648,601円
大学創立記念事業基金	40,529,027円
計	46,177,628円

都留文科大学創立70周年記念事業

寄附目録贈呈式

令和7年9月24日(水)、渡邊同窓会長より加藤学長へ都留文科大学創立70周年記念事業費(公用車購入費及び寄附金)として寄附目録を贈呈いたしました。



ツルブンの学生歌・愛唱歌が駅メロディに

富士急行線「都留文科大学前駅」において、本学の学生歌と愛唱歌が駅メロディとして導入されることとなりました。この駅メロディプロジェクトは、70周年記念事業のイベント企画を学生から募る中で、学生や教員にとって身近で親しみのある駅で本学ゆかりの楽曲が流れることにより、地域住民も含めた駅利用者の方々に、本学が“地域の中の大学”であることを感じてほしい、という学生の発案によるものです。今回、駅メロディとして導入されたのは、本学の象徴である学生歌「花のかげ」と、創立60周年記念事業の一環で制作された愛唱歌「都留は universe」の2曲です。富士山麓電気鉄道株式会社のご協力のもと、朝8時から夕方6時までの間、上り方面に「花のかげ」、下り方面に「都留は universe」が、列車の接近時に流れます。

10月8日(水)には、都留文科大学前駅で駅メロディお披露目式を開催し、本学関係者、富士山麓電気鉄道株式会社の皆様、学生など多くの方々が集まりました。式では、加藤学長が一日駅長として制服姿で登場し、式を盛り上げました。学長は挨拶の中で「地域とともに歩んできた70年を振り返りながら、これからの未来に向けた希望のメロディとして、多くの人々の心に届いてほしい」と述べました。

その後、実際に列車の接近に合わせて2曲のメロディが流れると、駅構内に集まった参加者からは大きな拍手が送られ、会場は温かな雰囲気に包まれました。



富士山麓電気鉄道株式会社 石井社長と加藤学長



駅前での記念撮影

創立70周年記念オリジナルグッズを作成しました

山梨の伝統工芸品である甲州印伝の「印伝の山本」とコラボし、本学の学章がデザインされた特別な「印鑑ケース」を制作しました。印鑑ケースは、日常生活やビジネスシーンで長くご愛用いただける実用的なアイテムです。伝統と現代性が融合したオリジナルデザインは、未来にわたって「知の拠点」として魅力ある大学であり続ける私たちの想いを象徴しています。

販売詳細は
こちらから



創立70周年記念式典にてプレ販売を行い、
現在は一般販売も行っています。

都留文科大 地域交流研究センター

つるフィールド・ミュージアム ～講義棟を有した、大学と地域をつなぐ新たな拠点施設～

都留市が進める「生涯活躍のまち・つる事業」のつる湧水のほとり整備プロジェクトにより、この地が多世代にわたる活躍の場となるよう田原交流センター nicot や大型遊具を備えた「つるビーパーク・いこっと」が整備されました。

本学においても大学が有する知的資産を地域に還元するため「つるフィールドミュージアム」を建設いたしました。

建物内には、これまでも地域と連携して様々な活動や研究を進めてきた「地域交流研究センター」を1階に、調理室や被服室、実験室の3教室を2階に置きました。この施設を活用して学生の実践的な学びの幅を広げるとともに、子どもから大学生、高齢者まであらゆる世代の交流を目指します。

令和7年度山梨県建築文化賞建築文化奨励賞を受賞しました

この度、本学の「つるフィールド・ミュージアム」が、令和7年度山梨県建築文化賞において建築文化奨励賞を受賞しました。山梨県建築文化賞は、県内における景観上または機能性等に優れた建築物を顕彰し、建築文化の向上を図ることを目的として実施されているものです。



施設外観



まちの縁側をイメージしたテラス&ライブラリー



資料室



調理室(愛称:メルヘンキッチン)

都留文科大学創立70周年記念式典・記念講演・祝賀会

令和7年10月11日(土)

都留文科大学創立70周年記念式典は、渡邊正司同窓会長の開会の辞で始まり、本学管弦楽団と合唱団による学生歌・愛唱歌の演奏で華やかに幕を開けました。続いて、山下誠理事長の式辞、加藤敦子学長の挨拶、来賓からの祝辞がありました。合唱団の歌声やストリートダンスサークルのパフォーマンス、さらに小宮文彦事務局長による大学の歩みを振り返る映像紹介が式典に彩りを添え、最後は佐藤明浩副学長の閉会の辞で盛会のうちに終了しました。70年の歴史を振り返り、「色とりどりのミライへ」向けて新たな一歩を踏み出す意義深い式典となりました。



記念式典



講演会 1



祝賀会 1



同窓会長あいさつ



講演会 2



祝賀会 2



都留文科大学創立70周年記念

令和7年4月19日
都留文科大学同窓会

令和7年度 理事会出席者

創立70周年記念誌について

都留文科大学創立70周年を記念して、「創立70周年記念誌」を制作しました。
電子版を大学HPにて公開いたします。(令和8年3月31日公開予定)
ぜひご覧ください。

※なお冊子版については、在庫が限られているため、販売や無料配布は行いません。